個人	041	大阪府高槻市　田村 和美

高槻に住んで 23 年になりますが、枚方大橋周辺だけでも、数回改修工事をしています。それも同じ場所を何回も工事していたような記憶があります。

工事をするに当たり、もっと将来性を見越して、慎重の上にも慎重を重ね計画を練って、自然形態をこわさないで、もっともっと自然を残し、自然を生かすようにしてほしい。

今では、両岸共コンクリートだらけで、自然が全然残っていない。

また工事費についても、国民の税金をもっと有効に使ってほしい。同じ場所を何回も工事せず、一度で済むようにすれば、無駄がないと思う。無駄使いが多過ぎるように思う。

国庫金の支出に当たり、これも慎重の上にも慎重を重ね、1 円の無駄も出さない位の計画性を持った改修工事を希望します。

長い不況で苦しい生活をしいられているので、もっともっと生きた税金の使い方をしてほしいと切に願います。

個人	042	滋賀県大津市　高尾　稔

琵琶湖を子供たちの泳げる湖に

私は広島県府中市に生まれ育った。中国山地から流れ出る芦田川の、川口から 20 キロ、川まで約百メートルのところが私の生家だ。当然、芦田川は私の最大の遊び場所、遊び友達であった。朝、昼、晩、四季を通じて、芦田川は私を遊ばせてくれ、楽しい思い出が尽きない。

川は、他の自然と同じく、おおむね優しいが、優しいばかりではない。私の兄の一人は、四歳の夏に、上の二人の兄を追って川に遊びに行って、行き違いになり、川にはまって水死している。父母は養蚕の桑やり作業に忙殺されている間のことだ。

それでも私は、川の思い出の大きさを忘れない。現代の子供の弱さは、自然に育まれることの少なさにあると思う。自然の水辺は子供たちにとって最大の遊び場所であるべきだと思う。プールには、ことに玄関先のゴムプールには、私の兄に起こった悲劇はなかろうが、これらは児童薫育の力において、自然の水場にはるかに及ばぬ。

私の妻は京都に育ち、小学生のころ、兄に連れられて大津市柳ヶ崎の水泳場へ、何度も来たと言う。今その柳ヶ崎は、自殺で有名な場所となっている。だれも泳ぎには行かない。昭和五十年代の初めごろ、私は小学生の息子と唐崎に泳ぎに行った。その年は泳げた。翌年はもうだめだった。その年、湖北の北小松に行ったが、きたない浮遊物があって、泳ぐ気持ちにはなれなかった。

何が、だれが、琵琶湖をこういう状態にしたのか。水洗便所の汚水、農薬、生活汚水、この三つの流入だろう。これらを手間とお金を掛けて浄化し切りさえすれば、その決心を皆がして、こつこつと実行しさえすれば、いつの日か、必ずもとの琵琶湖が戻ってくるはずである。

毎日新聞の、この「ご意見募集」の記事の次のページの「新びわこ宣言」には、東レ常務の栗原優氏の「水処理膜」の研究が紹介されている。力強いことである。ご努力に感謝したい。こうして琵琶湖を人間が汚してしまったのだから、努力してもとのように浄化するのは、そこに暮らす人間の当然の義務だ。その覚悟があるかどうかに、琵琶湖の将来がかかっていると私は思う。

個人	043	奈良県宇陀郡　渡辺　勇三

木津川流域の広域行政推進を

川の上流、中流、下流はひとつのつながりでしっかりと結ばれていることは普段、特に意識でもしない限りはあまり考えられないようですが、歴史や文化、生活圏を共有することで実は大いに関連性があると思われます。

淀川、琵琶湖に注がれる一つの木津川ですが、近畿の各府県を流れる流域の市町村がそれぞれの考え方はあっても、木津川でつながっているんだという共通の思いが底辺のところで結ばれているのはいうまでもありません。

そこから発想できることのひとつとして、あえて提起したいことがあります。それは地域間の交流、近畿はひとつとか同じ生活圏で人々がふれあう必然性からも、いま論議をよぶようになった広域行政、そして市町村合併についても、基本的な部分として「川の流域」を有力な選択肢にしたらどうだろうかと考えています。

人やものの流れ、生活基盤の流動化、経済や社会、そして政治の分野でもいわゆるグローバル化がいわれ、事実、そういう潮流になっているなかで、たとえば合併の枠組みを自分の県内に限ると変にセクショナリズムが顔をだすとしたら、本末転倒というか、将来に悔いを残さないかと心配です。

広域行政、市町村合併を府県境をも越える大局的な視点でとらえることの意味を正当に評価する材料の一つとして川の流域を選択肢のポイントに加えることも有意義ではなかろうかと思います。

個人	046	滋賀県大津市　松井 隆司

・問題点：淀川水系で、今、何が一番問題か？
汚れが目立ち見苦しい場所がある。
琵琶湖は立派な観光資源ですが十分生かされているとはおもわれません。

・理想・要望：どのような川が望ましいか？
昔から住んでいる魚が泳ぐ川に戻したい。
滋賀県に住んで良かったと思える環境にして他県から移住してもらえるようにする。
琵琶南湖で設備が整った世界に誇れる一大レクレーション施設を設置する。但し河川の環境は守る。（滋賀県が世界から注目される観光地に生まれ変わります。雇用機会は増え県民はハッピーになります。県も収入が増え多くの事業ができるようになります。）

・実現方法：そのためには、どのようにすべきか？
上流で工事があれば河口に土砂が溜まってもそのままである。
工事者は河口の影響を考えて工事すべきで現状復帰を義務ずける。
コンクリートで川の周辺を固めることやいたずらに川底をならす作業は止める。
外来魚（ブルーギル、ブラックバスなど）の育成は止める。
琵琶湖周回遊歩道やサイクリングロードを整備して人々の健康と安らぎに寄与する。
既得権である漁業権、入川権は必要最小限に制限していく。市民に川を開放して多くの人たちに遊び親しんでいただけるようにして関心を持ってもらう。
琵琶湖の水位が下がらないように水位が上がっても貯金するようにして瀬田の堰で過度な放水をしない。一方、農家などで困る人が出てくるようだが水位が上がっても被害が出ないような対策をしておく。
水上バイクはうるさい。騒音規制すべき。少なくとも人口の多い南湖では禁止すべき。
ラスベガスカジノの経営者に指導してもらう。大水泳場、スキュバーダイビング場、カジノ、釣り場、ホテル、劇場等々の設置。

個人	047	滋賀県大津市　道本 裕忠

琵琶湖の内湖について

1. 問題点

毎年、琵琶湖を歩いて一周しています。そして今、9周目に挑戦しています。私は59才になりますが、自分の脚で歩けるうちは琵琶湖逍遥を続けたいと思っています。

湖岸に沿って歩くことにより、車や電車からは見えなかったものをたくさん見る　ことができます。

最近では、ジェットスキーによる水質汚染と騒音、湖岸でのバーベキューによる　砂浜の油染、釣り人のマナーの悪さが目につきます。そして何よりも、琵琶湖の水質悪化と共に、人々の水と触れあっていた生活環境の変化には著しいものがあります。

琵琶湖の水質浄化のためには周囲の山々の森林涵養が重要であることは勿論ですが、ここ数十年の間に急激に安易に埋め立てられていった多くの内湖の復元も重要ではないかと思います。昭和30年代の干拓事業前に近江八幡山の山頂から撮った津田内湖の写真を見て、内湖が作る風景の美しさに惹かれました。両岸から延びてきた砂嘴によって琵琶湖と区切られた、このような美しい風景がつい最近まであったのですね。内湖とその周辺にできるヨシ原が琵琶湖に流入する河川の浄化のためのクッションの役割を果たしていることはよく知られています。それは内湖で営まれる多様な生物の生態系が琵琶湖の自然環境や水質浄化に大きな役割を果たしているからなのです。漁業にとっても内湖は、その生産力の高さに驚くべきものがあることは、干拓事業の干陸化のときにコイやフナを大童で手掴かみして目の当たりにしたという漁業関係者の話もあります。

内湖の復元　琵琶湖の水質浄化　瀬田川　宇治川　淀川の水質浄化

2.理想　要望

問題点で述べたように琵琶湖の水質浄化、美しい自然形態、豊富な種類の生物の生態系を取り戻すためにも、内湖の復元をぜひ進めてもらいたいと思います。

3.実現方法

内湖の復元といっても、単に堪水するだけでは元の内湖に復元は出来ないと思います。内湖を干拓する前に、内湖について充分な調査がなされないままに干拓を進めてしまったので、内湖復元の方法は全く手探りの状態で困難であるとは思われますが、色々な方面からの叡智を集めて取り組む必要があると思います。

個人	048	大阪府大阪市　水谷 陸彦

古植生を中心に古環境に関する研究をしているため、現生の植生を観察に行くことがしばしばあります。この観察において、原生林を見ることはもちろん大切ですが、災害や人為によって破壊された植生が破壊後どのように復活していくのかということを見ることも植物の生き様を見るということで非常に大切だと考えています。

山の植生は観察に行くところがいくつか残されていますが、河の植生（河辺林、河畔林）を観察できる場所がほとんど無いように思います。

琵琶湖・淀川水系は人口の多い地域を流下しているため、治水を第一に考えなくてはならないことはわかります。手付かずの河の植生があれば良いと思うのですが、それが治水上無理であるならば、治水事業をやったあと 30 年間とか 50 年間、人の手が加わらない、自然の遷移に任せた地域をできるだけ多く作っていただけたらと思います。 また、自然観察会と称して子供やその親たちと春先の淀川に山菜取りに行くことがあります。採った山菜を御浸しや天ぷらにして食べる楽しさと同時に、河の自然を学んでいます。上記の自然の遷移に任せた地域の内いくつかで、自然観察路などが整備され、移り変わりとともに現在の河の状態に触れられる自然学習の場ができればとも思います。

個人	049	大阪府枚方市　有冨　孝一

問題点
自然環境の中で生活しているにも関わらず，それを認識することが困難であること。このとき，自然環境とは，人にとって有益であるものだけをいうのではなく，時には大災害を起こすことも含む。

理想・要望
環境保全をこれまでのような優先順位の低いものとして捕らえるのではなく，狭い国土における自然環境として必要不可欠な存在であることを明確にする。都市化が進んだ町にこそ自然を復元すべきであって，河川だけにその機能を求めるのではなく，河川を中心として自然環境を都市の中へ広げていくべきである。

実現方法
河川法，都市計画法などの縦割り的な法律の上位に立つ，流域全体を律する法律の制定が必要。
自然の恩恵にあずかるだけでなく，大災害の危険性を広く分散して保有し管理していくことが必要。

個人	051	滋賀県神崎郡　山口　博

世代に残そう清流

京阪神の1千400万人の水だめ琵琶湖この琵琶湖に流れ込む河川が大小合わせて約400ほどあり、どの河川に足を踏み入れても従来の川はあるだろうか、源流から琵琶湖までのわずかな距離なのにどの川を見ても満足する川はもはや一つもないといっても過言ではない。琵琶湖に流れ込む川の中で五大河川のどの河川見ても途中でダムという巨大なコンクリートにとざされダム内は泥水となりダム放水時には泥水が流れ下流は美しい水を見る事が出来ないわけである、本当は源流と同じ水が琵琶湖まで流れるはずだがダムという壁で同じ水でもこれだけ変わってしまうわけである、現在琵琶湖周囲に9個のダムがあるがあとまだ8個のダム計画がなされているわけだ、こんな事を繰り返している限り琵琶湖の水は美しくならず又淀川の水も美しくならないわけだ、琵琶湖の水を美しくするには、琵琶湖に流れ込む河川を美しくしない限りいつまでたっても琵琶湖はよみがえらない、大自然に抱かれてどこまでも透明な清流が白い岩の間を時には美しいせせらぎをなし時には深淵となって流れており素晴らしい光景を造りだして流れている川これが本来の川の姿ではないだろうか。でも残念ながら今の川は違う護岸工事で川はコンクリトで固められ、水の遊ぶ所もなく雨が降れば水が一気にでて被害が大きくなる。母なる川は死んでしまっている、今一度川を生き帰らさなければならないのではないだろうか、山には木があってこそ山の役割を果たし、川には水があってこそ川の役目を果たしその水の中で生命が生まれ生態系が保たれるのでわないか、現在の川では魚も住めない川がある、洪水いがいは、いつも川は砂漠化しているこんな川で本当にいいのかとふと考えてしまう。人間10人といろといわれるように、川も一川一川違いその違いは学識経験者でもわからないであろう、その地域に住む人の長年の経験こそ大事にしなければならないのではないか、行政というとてつもない大きな組織の考えを変え高度経済成長期の水資源開発を考え直さなければ生命の源である水、川は世代に大きな爪痕を残すことであろう。20世紀はあまりにも人類は自然を破壊してきた、川もそうである小川のせせらぎをきき友と川で泳いだり魚取りをしたあの時の楽しかった思いでを子供達に残して上げたいその為にも21世紀は自然を守り川をよみがえらさなければならない。その為にも何が出来るか考え、どうあるべきか真剣に取り組み川のあるべき姿を世代の子供達に残して上げる事が我々大人に与えられた義務ではないだろうか。

個人	052	大阪府枚方市　本間 都

淀川流域についての意見

１．水系全域におけるダム建設計画の見直し

① 流域の水需要は不足しているのか、検討してほしい。水はすでに足りているのではないか。計画中のダムは全て必要なのか。

② 流域自治体では水道料金の値上げが短期間にしばしば起こっている。しかも値上げ幅が大きい。下流の費用負担によって行われる水資源開発について、下流住民への情報開示と費用負担に関する同意はどういうかたちで行われているか。

２．極度に都市化された水系についての特別法の制定

① 淀川のように上流、中流、下流域に至るまで都市化された水系は、水質汚濁がいっそう進行する。水質の浄化のための法的な特別措置を講じてほしい。

② 水質保全のために、①に関連して水質基準（項目、数値）を見直す必要がある。

３．支流の環境整備

淀川に注ぐ支流の水質、水辺環境共に、本流に比べて非常に劣っている。流域住民にとっての親水空間とは、淀川本流よりもむしろ身近な支流の流れである。水量がなかったり、汚濁がひどかったり、囲いや柵で近づけなかったり、崖の底の谷間状の一面打ちだったりすると、水への関心や親しみが養えず、水環境に無関心な住民がつくられてしまう。水系全体それぞれの地域で水のある風景を暮らしに取り入れ、四季折々に川を守ったり、川で遊んだりする習慣や地域交流ができる川辺を作りたい。

以上

個人	053	滋賀県甲賀郡　廣嶋 健一

琵琶湖上流から農業汚水の流出を無くす事

私達農家一人一人が農業汚水を流さない様、稲作の栽培方法等を考える。
栽培方法は、私が今日取り組んでいる乾田不耕期直播栽培という方法により米の栽培をするように指導し、面積の拡大に務める事です。
この方法は、稲刈りをした後一度も田を耕起せず、刈り取った稲株のままで直接籾種を播く方法であり、代かきをしないので農業泥水は流しません。
水は播種後 1 ヶ月して入水し、収穫の 10 日前に落水することになり琵琶湖への負担はありません。
すなわち、滋賀県下の田植えは 5 月の連休がピークであり、すべて代かきして、濁った泥水を落水して、田植機により苗を植えられるのです。
この落水される水は、肥料や農薬の汚水ばかりで琵琶湖の水は相当に汚れます。
この栽培方法を各地域で耕作面積の何割かでも取組めば、確かにその取り組んだ分だけは水は良化されます。
私は、今年滋賀県が独自で取り組まれた「環境こだわり農作物」の認証を受け、琵琶湖の環境問題に協力しております。
この「環境こだわり農作物」は御存じの事と思いますが、普通栽培の化学肥料、農薬は半分以下に押さえ、琵琶湖周辺の河川を良化する事を目的に取り組まれたものです。
この趣旨でさえ賛同協力する農家が少ないのが残念です。
なぜ私の取り組む栽培方法や滋賀県の取り組む「環境こだわり農産物」の栽培に耳を傾ける農家がないのかと申しますと、収穫量が二割から三割減収になるからです。
減収の反面、この両栽培方法で収穫した米は、粒も大きく味も良いという評価です。
今日の米は量より質と言う時代に変わりましたし、減反をする今日環境を優先して、減収よりも琵琶湖の水を昔のきれいな水に変えたい気持ちを滋賀県の農業生産者に訴えたい思いです。
私達一部のものが取り組んでいても、他の人達は笑っておられるだけだと感じます。
農業組織を担当する職員が、もっと力を入れて農家に奨めるべきである。
ある会場で「環境こだわり農作物」を聞かれましたが 100 人中、知っている人が 1 人もおられなかったこともありました。
これも滋賀県のピーアールが足りない証拠でした。

個人	055	滋賀県栗東市　岩見 隆賢

明日の淀川のために

① はじめに　琵琶湖の近くに住んでいるので、琵琶湖を中心に述べさせていただきます。
川への想いは色々ありますがなんと言っても水の汚れ、異物の多さが問題です。

② 問題点　住民も行政も、何年たっても「実行」が少ない。言葉だけ氾濫！！
淀川水系が、特に琵琶湖がこんなに「荒れ果てているのに」今だに
美辞麗句ばかりが氾濫して実のある改善が進んでいないこと事
先日の「世界湖沼会議」とか、県から配布されてくる印刷物とか、テレビ番組とか、マスコミの取り上げ方とかが**言葉の遊び**が多く、大問題です。
実行あるのみと痛感するしだいです。

③ 理想・要望（どのような川が望ましいか）

(1)　土の川

わが滋賀県には無数の「コンクリートパネル製」の小川（チャネル？）があります。この何十年の間に自然の小川がどんどん「底も壁面も」コンクリートの板で造成されました。これら無数の川を水は一気に流れ琵琶湖に流れ込みます。大量の有機無機の不純物をそのまま流し込むのです。
小規模の川のみならず野洲川も草津川も何十年もかけて改悪されてきました。
公共工事と称して争って改悪工事が強力に進められたのです。昔のままの川ではまずいにしても**「コンクリートの川」**は諸悪の根源です。

(2)　家族や大型建築物の屋外側溝、田畑の排水溝とを絶縁した川

＊ 農業排水　除草剤、殺虫剤、化学肥料が大量に川に直接流入、そして琵琶湖へ。
＊ 生活雑排水　洗車洗剤やオイル等が家庭の側溝から直接近くの川に流入、そして琵琶湖へ
＊ 業者雑排水　住宅新築や改築現場ではセメントやオイルや塗料等の残り物、洗浄水が側溝から直接流入。
大手業者でも、公共工事でも平気で大量に流している。（ダンプカーの洗浄排水まで）

無理かもしれないが「理想」を言うならば、これらを「絶縁」し下水道へ!

(3)　川辺を老若男女が「散歩」できる川（土の道、緑、虫、魚、花）・・・寝言かな

④ 実現方法

まずは「琵琶湖」の汚濁をこれ以上増殖させないことが淀川のあらゆる問題を前進させる「最大の宿題」ではないかと考えます。
議論はもう言い尽くされています。**具体的**に次のことだけでも先ずはやるべき

(1)　滋賀県の下水普及率を他府県並みにする。（現在50％くらいか）
(2)　見かけの普及率のみならず、出来るところから屋外側溝を下水道につなぐ。
(3)　琵琶湖に限らず「山」も含めた管理への切り替え。
(4)　住民や業者の側溝や川への汚物廃棄を厳罰で対応する。（もっと公報などで事の重大さを PR する）
(5)　**情報の公開**（うやむや、ひたかくしが多い？）
(6)　公共工事の異常コスト高を正常にしてその財源で（1）（2）を順次やる。

以上

個人	058	奈良県奈良市　橋本 哲夫

淀川水系についての私見

淀川水系は流域面積も広く、近畿で最も重要な水系と言えます。近畿の環境を構成する大きな要素といっても良いでしょう。そこで私は、今後の河川整備計画を策定するにあたっては自然環境面をより重視していただきたいと考えています。

従来は治水・利水が重視されてきたように思います。河川法の改正以来、環境面対策も強化されてきたようですが、まだまだ不十分です。

勿論、産業や、生活にとって貴重な水なので、治水・利水を軽視するわけにはいきません。これに加えて環境保全面にも今まで以上に考慮し、3つの目的の共存を考えていただきたいと言うことです。

戦後、わが国を復興させる過程で、環境保全まで十分に配慮する余裕がなかったことは理解できます。しかし、今、わが国は経済的には世界でもトップクラスの地位に到達しました。これからの河川整備計画は、今まで遅れていた環境保全面を最重要課題とすべきです。河川環境がよくなることで、生態系が守られたり、景観が良くなるといった効果がありますが、治水・利水と違って当面切羽詰ったニーズとならないだけに今まで、大きな声とはならなかったので、どうしても軽視されてきたのでしょう。

動・植物は声を出しません。しかし自然環境を可能な限り保全していくことは、将来にわたって人類が生き延びていくうえで、最も重要なことだと殆どの人は考えているのではないでしょうか？そのような声無き声に耳を傾けて、今後20～30年間の河川の整備計画を考えていただくよう強く要望します。

川は森と海をつなぐ自然のベルト、循環のルートです。この役割は川以外にはできません。今まで人類は河川環境をずいぶん破壊してきました。これからの20～30年間は、その修復時期にしていただきたいと思います。これを逃すと本当に手遅れになり、取り返しのつかないことになるのではないでしょうか。

お金はかかるかもしれませんが、コンクリート三面張りの排水溝のようになってしまった中小河川を多自然型工法で草木の生える土手に戻し、また本来の姿である蛇行した川に戻す整備、役割を終えたダムや堰の解体、水源涵養林の育成、ゴルフ場や野球場（こういった施設は河川敷でなくても作れる）等になっている河川敷を元の葦等が茂る川辺やワイドに戻す整備などを重点的に織り込んでいただきたい。治水・利水と両立する技術は十分あると思います。

それと何十年に一度という大雨に対しても川の水を絶対あふれさせないという思想は、この際捨てる必要があるのではないでしょうか。むしろ洪水になっても少なくとも人命だけは守り、被害を最低限に食い止める施策を考えるべきだと思います。

川はみんなのものです。勿論人だけではなく動・植物にとっても大切な場所です。川を愛する一市民としての私見ですが、整備計画の中で考慮していただければ幸いです。

個人	059	三重県上野市　稲森 剛

木津川河川についての意見

昔は、自然環境は、人に精神的や物質的に、大きな恵みを与え豊かな生活を営むうえで、欠かすことのできない貴重な存在であったと思います。現在は、河川工事や住宅の建築とめざましく川幅は狭く又、川の水量も少なく、川に生存する魚類も殆んどいないのが現状の環境です。又工場が流出する廃棄汚染と家庭から出る汚染が大きく左右することが大きな原因でしょう。

「理想要望」：自然豊かな川で生物が生存する環境で繁栄する川を造ることが一番重要であると思います。又人間生活に良い環境を与えることも大変重要です。

「実現方法」：自然環境を保ち最小限度の破壊により、河川工事を行うことも重要であると思います。又工場からの廃棄汚染物の厳禁、家庭からの汚染物の厳禁と、人間としての自然破壊しない心構えが必要だと思います。

個人	060	奈良県奈良市　福井 隆夫

淀川水系木津川の保全管理について

木津川の水質保全をはじめ、すべての管理について流域全府県市町村に対し、下記の施策を早急に実施するよう強力に勧告するように提言いたします。

① 各自治体は現在の施策はバラバラの感じがあるので流域管理組合を結成し統一的に人員・費用等を投入すること。
② 行政だけでは行き届かない面があるので所在の市民団体、NPO 等に呼びかけるようにすること。特に上流域の住民に関心を促すこと。
③ 流域各市町村の下水道整備を促進するよう進言すること。なお、莫大な費用がいるので府県・国にも働きかけられたい。
④ 木津川に流入する各枝川の住民に対し極力、生の生活廃水を出さぬようキャンペーンをすること。

個人	061	大阪府大阪市　辻山　正甫

以下に私の淀川流域全体を対象とした意見を述べます。

１．淀川流域の問題点

① 流域の地形は急峻で地質も脆弱かつ、降雨は梅雨・低気圧・台風時の集中豪雨は激しく、山崩れ・土石流・大洪水が頻発し多くの生命・財産が失われ都市機能に大きなダメージを受けてきた。

② 地震や台風時の津波や高潮による災害も数多く蒙ってきた。

③ 流域の都市は洪水氾濫域にあり自然の脅威にさらされている。

④ 一方夏季・冬季の渇水の発生も頻発しており健康で文化的・快適な生活や都市の発展に大きく阻害している。

⑤ 淀川の水源は流域内外の諸都市の人口 1,400 万人の生命と日本経済を担う都市に供給し社会基盤の礎になっている。

⑥ 淀川の水質は下水道整備に伴い徐々に改善されているが水遊びや飲料水としての水質には達していない。

⑦ 河川の自然環境は治水整備や水質源開発・公園等の利用のため影響を受けており、自然河川・流域の環境の回復・保全が急がれる。

⑧ 治水・利水の重要性に比して安全度は諸外国と比して低い。

２．理想・要望

安全・安心・安らぎ・潤いをキーワードとして「人と自然の共生システムの構築」を目差し、一歩一歩確実に歩み進歩してほしい。（バランスが重要）そのため、住民、学識者・行政が一体となった合意形成（討議・相互理解・解決）が最も重要と判断する。（流域委員会の重要性）

３．実現方法

上記の様に人間社会のみならず自然界（環境全般）にも配慮したバランスのある河川整備（治水・利水・環境）が重要。具体的にはダム・堰・堤防・遊水地・公園・河道削掘等の治水・利水・利用整備に際し、環境面での配慮（ミチゲーション・回避回復・保全技術）を同等にバランスする整備計画の実施が最善の策と判断する。

個人	064	滋賀県野洲郡　東郷　尚

川への想い

21世紀は水の世紀。食糧不足の前に水危機が到来するといわれ、水資源の枯渇と汚濁の防止が課題である。その意味から水循環への思いを馳せ、水の自然サイクルつまり、降雨→土壌浸透→地下水→河川・湖沼→海→蒸発の繰り返し循環を学び起こさなければならない。

この循環型社会を実現するため、その反省として、科学の発達と経済的繁栄を求めた結果①森林破壊による地球砂漠化を②地球温暖化を③地球汚染化を進めてしまった。

私は NPO「郷土を愛する会」(H6)の一員として野洲川を中心の地域づくりに携わり、ボランティアの一環として、野洲川河川愛護モニター(H11.12)を経験した。そこで学んだことは、これからの社会資本整備は「作る時代」から「使う時代」と建設白書は指摘しているように、野洲川河川敷に作られているものが効果的に使われていない現状である。住民がしっかりと魅力のある生活圏の一環として効果的に使う工夫が必要である。

新河川法(H9)の柱「治水・利水・親水」①河川は生物の生息・生育の場②健全な水循環を回復③地域住民と協同して河川を守る、ことに共鳴し、環境こだわり県として野洲川廃川敷「びわこ地球市民の森」(42.5h)づくりにも参画している。滋賀全体を小宇宙ととらえ、第 9 回世界湖沼会議を終え、次の第 3 回「世界水フォーラム」(H15)(琵琶湖・淀川水系)にむけてはばたくとき求められるのはゼロ・ミッション(放出された物資をゼロに)の目標、つまり循環型社会をめざし自然の生態系に帰そうとするものである。その第一歩として、環境自治推進に精力的に取りくんでいる課題が「循環型自然環境」を取り戻す『水循環保全』である。

最後に野洲川づくりとして①治水対策②歴史・文化の継承③自然環境の保全と再生④空間の利用⑤清流の復活⑥地域コミュニティーとの連携・構築を一層進めていきたいと念じている。

個人	065	大阪府枚方市　松村 滋

淀川河川敷について思うこと

私は趣味と健康をかねて、永くウオーキングを続けております。コースの定番は、週一回の淀川河川ウオークです。自宅から京阪・枚方公園駅を経て、河川敷を鳥飼大橋までの往復20余キロのコースです。

今日、このような提言の場をお借りして、ウオーカーのエゴとは考えますが、2～3感じていることを記させていただきます。

先ず、川沿いの小道（草道）が大変気に入っているのですが、残念ながらかなり分断されていることです。ウオーカーにとって柔らかい草道は膝などへの負担も少なく、大変心地よく歩けます。私も極力川沿いの小道をたどっております。

工事中の部分での分断・ホームレスの青いテントの集団やゴルフ練習にて、道が分断され、後戻りを余儀なくされております。

私の理想は枚方から大阪湾までの片道30余キロの川辺りの小道を、往復することです。是非とも下流まで気持ちよく辿れるよう、御一考願いたい物です。

又、四季を通じてのウオーキングで感じます事は、水と雑木が豊富な割には小鳥・水鳥の声が少ないように思います。

小鳥・水鳥の楽園とは申しませんが、少しの思いやりの心で整備できたらと考えます。自然のままの水辺、「わんど」の保護、又、人為的な保護として、水上バイクの騒音規制もありましょう。

さらに、保護をエリアの問題とし右岸・左岸を対とし、総合的に特定区域と考え、自然保持に配慮したら如何でしょう。場所はなるべく橋と橋の中間部が良いのではないでしょうか。

個人	066	大阪府大阪市　重岡 敏明

淀川に思う

遠い昔から人は川のそばで暮らしてきた。このことは今も変わりない。いま淀川を主点に考えてみる。琵琶湖を水源とし近畿地方の中央部を流れ、木津川・桂川の二大支流を入れて大阪湾に注ぐ約八十キロの大川である。淀川治水の記録は、仁徳天皇のころから散見されているという近畿地方の宝の川である。

○　問題点：生活の便利さを求める農薬・家庭洗剤を制え、水の浄化を第一に考えること。
○　要望：生活に活気を与えるため、観光船を運航する。その収益で川を保護する。
○　実現方法：各川の水をためる森林の緑を育成して洪水を防ぐ。また、上流の岸に植物を植えて魚貝を育てる。

水は今後ますます全地球的に大切な問題となる。水の惑星をよみがえらせることを願う。

個人	067	奈良県香芝市　松浦 利國

「川」という字を瞳にするとき、少年時代、川に入り鰻を追ったこと、秋には小川で沢蟹が這っていた頃が、彷彿としてきます。

終戦後、叔母が嫁いだ北河内の淀川に沿う村では、小川が引かれ、野菜洗い濯物が可能だった事。前栽の泉水には亀が産卵し、小亀を獲らえて、四天王寺の縁日で商う者が居た等、川を人間との営みがあったように聞きます。

高度成長期、淀川水系流域の宅地開発が盛んになり、環境の変化著しく、生活廃水等の汚染度高く、河川がもろに被っている現実。

昔から、“治山治水”といわれますが、今こそ、大川の支流、そのまた枝流から、清流に戻すことこそ、政ではないでしょうか。

21 世紀、自然との共生の大切さを、自然に学び、遊ぶ、「川にふれあう教育」を奨めようではありませんか。小・中高生を対象に。

湖畔、川岸に、葭や萱の人工移植栽培をも実践し、環境の保全、水質浄化を図り〈野鳥舞う楽園〉を築く、それが私の夢ですが！

個人	068	大阪府大阪市　坂 道夫

第 7 回淀川部会（2001.9.10 開催）において、淀川左岸水防事務組合から水防団の現状について説明が行われたようですがこれに関して提案します。

Ⅰ） 水防団員の高齢化、欠員増が危惧されているようだが団員の公募は困難で効果はあがらないと思われる。
都市化の進展により常住市民を動員することは公民意識の稀薄と相まって困難であり、かつ不特定多数のいわゆる烏合の衆では団体組織活動をとらせるにはなじまず短時日の訓練ではその効果を期待しえない。

Ⅱ） そこで比較的そうした組織的行動に馴れた公務員として、沿川地方公共団体の職員殊に作業実務に慣熟した従業員を、水防有事に水防団員として活用する方途を考えるべきである。

Ⅲ） 水防団は水防事務組合に属する非常勤の公務員であるが　は水防事務組合の管理者が行う。管理者は淀川両岸の大阪府域内は大阪市長であり他の市町はいずれも組合を構成しているので夫々の市町長は部下である当該市町の職員を動員することは適切でありまたその責任である。水防は市町村の義務であるから有事に際しては、いずれの部署に所属する職員たりとも活用応援せしめなければならない。
そこで市長職員殊に実務作業に日頃組織的に従事しているいわゆる従業員を水防団員に兼務せしめて住所地ごとに組織化し、訓練研修を積んでおく（そのためには本来職務専念義務を免除して兼務を公認する）こととする。
従業員は有事に際しても直接所属部署の警察等にあたる要員には限りがある。全員を要しない。例えば水害後の復旧作業は水害を未然に防止する水防活動時には従事の要なく閑散である（下水道事業のポンプ場等に勤務する従業員等は除外）から動員が容易である。清掃従業員は特定の地区に居住するものが多いので動員組織に組み込みやすいと思われる。

Ⅳ） こうした方策をとるとすれば当該市町長は部内で担当の対応措置に　慮する必要があると思われるがこれを解決、実現すれば、他の方法よりも比較的妥当容易であると認められる。よって河川管理者である国土省当局は水防助成のための管下市町長に充分説明要請して実現に努力すべきである。2～3 年の期間に熱意を傾ければ可能であると思われる。

個人	069	大阪府交野市　森脇 榮一

意見－1　淀川水系流域委員会に対する要望

河川整備計画策定に対する淀川流域委員会の役割と討議すべき項目

1. 河川整備計画策定に対する淀川流域委員会の役割

淀川水系流域委員会・各部会においては、例えば多目的ダム建設の是非、流域住民による水質保全の取組み、森林保全、上下流の交流等のように、河川整備計画策定の範囲を超えた議論がなされている。河川整備計画は、直接的には河川敷の範囲で、学識者及び地域住民の意見を得て、その地域に相応しい具体的な整備計画を策定すべきであると私は理解している。

成果としては、河川整備に係わる基本理念、基本理念に沿った整備方針、区間別の具体的な河川整備計画をまとめたイメージ図（平面・縦横断図）を示す方向であろう。

河川整備計画策定の範囲を超えた項目の取扱いは、次の通りとすれば良いと思う。

A. 多目的ダムの建設は、河川整備基本方針（建設大臣が河川審議会の意見を聴き定める）に位置付けられる。従って、この意見は、流域委員会の立場で河川審議会に伝える。また、洪水氾濫を許容する治水計画の意見（水田地帯で、少数の家屋の嵩上げと思うが）についても、河川審議会への報告事項とする。

B. 流域住民による水質保全の取組みは、現行の淀川水質汚濁防止連絡会（必要で有れば流域住民参加）で対応し、本委員会の意見等は連絡会に伝える。但し、河川・湖沼（ダム貯水池を含む）の水質のあり方、及び河川敷内の水質改善の取組みは本委員会で検討する。

C. 生物生息環境改善のための森林改善、水田の用掛水路改善、休耕水田の活用、河川環境の維持・改善に係わる施策並びにボランティア活動は、別途、協議会等を設けて対応する。

2. 淀川水系流域委員会で討議すべき項目

淀川水系流域委員会で対応することが望ましいと考えられる項目は次の通りである。

1）流域の産業・経済を支えるための治水・利水安全度の向上に資する河川整備計画

［治水］①現行淀川水系工事実施基本計画の安全度の確保、②水田地帯で少数の家屋嵩上げと、水害保険制度の創設により洪水氾濫を許容し、産業・経済の中枢部区間の治水安全度を、更に向上させ超過洪水に備える。（河川審議会へ意見提出）

［利水］①琵琶湖を水源としない地域の利水計画1／10確率の安全性。②京都市等の下水排水を上水道用水とする淀川本川の浄水場における水質の安全性を確保する対策。

2）日本文化の香の高い淀川の歴史的景観・景勝地の保全・創成に資する河川整備計画

［歴史的景観］宇治川の平等院、塔の島近傍、桂川嵐山、淀川木川の鵜殿等

［景勝の地］瀬田川の鹿跳渓谷、桂川保津峡、琵琶湖八景、ダム貯水池等

3）淀川流域の生物多様性を豊かに支え、琵琶湖・淀川の固有種の生息に資する河川整備計画

魚類の昇降の確保及び良好な生息環境の保全・創成（健全な栄養塩類循環の確保）

［関連事項 3①ﾌﾞﾗｯｸﾊﾞｽ等の外来魚の駆逐、②生物多様性の確保に必要な河川・湖沼の水質

4）河川に親しみ、生物との触れ合いを通じて豊かな人格の形成に資する河川整備計画

①淀川本川の自然保全地区の徹底的な保全。②野草広場地区に河川敷自然植生を主体とした観察園の設置。③施設公園の周辺に河川敷生態系に配慮したﾊﾞｯﾌｧｿﾞｰﾝの設置。

以上

個人	069	大阪府交野市　森脇 榮一

意見－２　治水に対する基本理念

流域の産業・経済を支えるための治水安全度の向上に資する河川整備計画

＊必ず発生する洪水氾濫＊　－治水事業の推進は不要か？－

１．流域委員会における所感

６回の淀川水系流域委員会を傍聴して、私は、流域住民の生命・財産を守る治水事業の必要性の認識が極めて低いように感じた。例えば治水のための工事はやめて、その予算を環境保全に使用する、治水事業を中止する勇気を持つ等の意見である。毎年どこかで洪水氾濫が発生している現状を考えると、私には**淀川流域に洪水氾濫をもたらす豪雨が発生しないとする科学的根拠を見出せない。**なぜなら現行工事実施基本計画に定める計画高水流量を安全に流下できるのは、木津川下流部のごく限られた区間のみであるからである。

２．わが国の治水事業の経緯及び治水効果

今までの治水事業の取組みは、環境への配慮が不十分なことは認めなければならないが、第二次大戦後に洪水氾濫が頻発し、多くの人命・財産及び稲作に多大の被害が発生し、速やかに洪水氾濫を防ぎ、国民の飢えを解消する必要があった。

当時の国民所得・国家財政は乏しく、治水予算が潤沢であるわけはなく、事業費と工期の面で有利な治水目的を有するダム建設が進められ、堤防は規格通りとして限られた予算で、ひたすらに堤防の延長を稼ぐ事が、この時代の要請であり、会計検査院も厳しくその方向で検査をした。このような効率的な治水事業の推進によって全国の河川の安全度が高まり、産業・経済の発展を支え日本は経済大国に発展し得たのである。

（戦後の治水事業の整備による洪水氾濫防止効果を明確に示すべきである。）

３．今後の治水事業推進のあり方

こうして河川の安全度は高まり、産業・経済の発展、個人所得の増大によって、洪水氾濫域に工場・事業所、人口・財産等が集積した。淀川に洪水氾濫が発生すると被害は甚大であり、また生産活動が損なわれるので、他流域及び海外の産業との競争を考慮すると、特に中小企業は立ち直れないであろう。従って、環境保全を重視するとしても、人命・財産を守り、産業・経済活動を健全に維持するため、次の治水施策を推進すべきである。

①現行の淀川水系工事実施本計画に定める治水施設の整備は怠りなく推進する。

②人口・資産の過度に集中する区域は、早期に効果の発揮できる超過洪水対策を講ずる。

③水田地帯では、少数家屋の嵩上げと、水害保険制度の創設により洪水氾濫を許容する。

４．委員会に対する要望

日本国憲法によって、人々は健康で文化的な生活する権利を有しているが、洪水氾濫はその権利を奪う。一方、河川法は河川について洪水、高潮等による災害の発生を防止する事を目的としている。従って、**堤防（洪水調節ダム）は洪水氾濫を防ぎ、氾濫域の人々の生命と健康で文化的な生活を守る砦である**ので、治水機能を確保すると共に、経済大国になった今、環境に配慮した川造りが始まると考え、委員の方々は英知を傾けて、生物の視座からも望ましい河川整備計画を策定していただきたい。

以上

個人	069	大阪府交野市　森脇 榮一

意見－３　河川・湖沼の水質保全に関する基本理念

生物多様性を確保する河川・湖沼の水質についての認識と河川整備計画

＊水質濃度が低くければ生物多様性が確保できるのか＊

１．生物多様性を確保する河川・湖沼の水質についての基本理念

生物多様性を確保する河川・湖沼の水質は如何にあるべきかについて私見を述べる。

我が国の水質保全行政が公害対策として水質問題に対処したことや、河川・湖沼の水質濃度が低ければ、アユ、ヤマメ等の高級魚が生息でき、漁業経営上有利であるとする側面で水質のあり方を判断してきた。生物多様性の保全が重視される現代においては、新たな視点で水質を捉えなければならない。従って、「生物の多様な生息・生育環境の確保」するための河川・湖沼の水は、**「各水域で生存する生息種が必要とする適度な栄養分（栄養塩類及び有機質）を保持する」とする視点が必要であろう。**

２．生物多様性を確保する河川・湖沼の水質保全の方向

１）生物多様性を確保する河川・湖沼の水質保全のあり方

次に、河川・湖沼の各水域における生物多様性を確保するための適度な栄養分濃度のあり方は、河川・湖沼の流域が自然的状態（人為負荷の少ない状態）であった頃の栄養分濃度が理想であり、そうするには流域の諸条件を本来の自然的状態に近づけるように復元（負荷の削減、自然浄化機能の回復）を行う必要があると考えられる。

２）琵琶湖の水質管理と水質保全のあり方について

琵琶湖の水質類型指定は、水質測線上の中央と湖岸共に、南湖はＡ類型、北湖はＡＡ類型である。「人間の視座」では景観・水遊びの面で湖心から湖岸、果ては内湖まで、全ての湖水が清冽であることを期待する。しかし、内湖や湖岸では人為負荷のない時代でも落葉、沈水性・挺水性植物等の枯死した有機質が堆積・分解して、湖岸周辺の有機質、無機塩類等の水質濃度を高め、また流入河川の影響によっても水質濃度は高まる。

従って湖心に比べて、湖岸、内湖は水質濃度の高いのは当然で、内湖にアオコが発生する事もあろう。この**水質濃度差が琵琶湖の「生物の多様性」を確保**しているともいえよう。

これを水質環境基準点の設定で見れば、**例えば湖心をＡＡとすると、湖岸・内湖はＡ或いはＢ類型として指定するのが素直である。この類型指定は琵琶湖の多様な生物の生息環境を確保するものであると共に水質保全対策も効率的に対応できよう。**なを、北湖が湖岸までＡＡ類型であるとして、流域に生活する人々や水生生物、水鳥に良い環境なのか。流域に１００万人以上の人々が生活し、広い耕作地が存在する琵琶湖でＡＡ類型が達成できるのか、併せて議論すべきである。（ＡとＡＡの中間のＡａを県条例で設定できないか。）

３）河川の水質保全のあり方について

河川については、淵が粒子状の有機質を堆積させて分解し、瀬がせせらぎによりＤＯを供給すると共に底生生物により水質を浄化する。**連続する瀬と淵は水質浄化に有効であると共に、淡水魚の良好な生息環境であるので、堰・落差工を設けることも含めて積極的に瀬と淵を創成すること**が望ましい。

以上

個人	069	大阪府交野市　森脇 榮一

意見－４　河川・湖沼と生物の多様性に係わる基本理念

生物の多様性を復元する「水と緑の生物の回廊」

＊陸域と海洋の豊かな生物の多様性を支える栄養塩類の循環＊

［はじめに］小林委員は「河畔林が治水、ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟﾈｯﾄﾜｰｸ化に有用である」ことを提言され、河川を「生命的回廊」として、海域ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟと陸域ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟを連絡する意見もある。河川整備計画に「生物的回廊」や多自然型川造りを取入れることについての基本理念をまとめた。

１．生物の営みと栄養塩類の回帰について

地球上では生産者の植物が無機栄養塩類、CO_2及び水を吸収し、無限の太陽ｴﾈﾙｷﾞｰにより有機物を生産して増殖する。これを動物が捕食し、動物の排泄物及び植物、動物の遺体（有機態）をバクテリア等が分解して無機栄養塩類とする回帰が行われて生物は永続して生存できる。

２．生物の生存を支配するリンの挙動

リン酸（リン）は植物の*1)生存・増殖と捕食する動物の生存を支える重要な物質である。

１）無機リン循環の歴史的な変化について

地球上には岩石風化によるリンを水が溶かして海洋へ運搬する「陸地⇒河川⇒海洋」へのリンの流れと、河川を遡上するサケ、マス等や海洋の魚類を捕食する鳥類による「海洋・湖沼⇒河川⇒陸地（林野）」へのリンの流れがある。即ち、**地球上では海洋・湖沼⇔河川⇔陸地に連なる水循環系と生物移動系の作用によるリンの循環が行われている。**

２）栄養塩類の循環と生態系の拡大について

河川により運搬・蓄積された海洋のリンは、豊かな動植物を育て、サケ、マス等が捕食して数千倍の体重に育ち河川の上流に遡上する。これは海洋のリンを遡上性魚類が、河川により陸上の奥深く運搬することである。晩秋に遡上したサケ・マス等の一部は、河川の上流で鳥類や哺乳類に食べられ、その排泄物や遺体は林野に散布される。産卵を終えたサケ・マス等は生命を終え、春の雪解け水により下流に運ばれ水生昆虫、甲殻類等を育てる。

水生昆虫は羽化して陸地に飛び立ち、死滅して林野にリンを供給し、また鳥類は水生昆虫を捕食して、より広い範囲の林野に排泄物（リン）が散布される。このように**魚類、水生昆虫と鳥類、哺乳類の行動が、水循環を媒体として海洋・湖沼から河川、河川から林野へのリンの流れを生み、陸上動植物及び海洋動植物が豊かな多様性が創造された。**

３．リン（栄養塩類）循環の問題と河川整備計画策定の理念

河川は堰、砂防ダムの設置等により魚類等の遡上が困難となり海洋からリンの運搬が損なわれ、また瀬、淵、わんどが失われ落葉等を貯留する機能が損なわれて、水生昆虫等の生育に支障を与え、水域のリンの回帰、林野へのリンの移動が損なわれている。

淀川水系の豊かな生物の多様性を保全するには、海域ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ（海洋、干潟、ﾀｲﾄﾞﾌﾟｰﾙ）から陸域ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ（河川、湖沼、林野、耕作地等）の間の健全な水循環と栄養塩類循環を再生することを基本理念とすべきである。河川整備計画では、魚の登りやすい川造り、瀬、淵、ワンドの造成及び河畔林帯を整備して「水と緑の生物の回廊」を構築することが基本理念に沿うことと考えられる。

以上

個人	070	大阪府堺市　奥中 久米司

1. 自然体物が自然発生出来タコトヲシタタメ今後河ノ問題にナッテキタ。人間研究化学物体原因アル。今後ハ自然物体ガ育成サレル水系流域都市計画を関係府県、市町村等ニ住宅、企業移転規制禁止スルコト
ソシテイカナル理由問ワズ罰金 50 億円 100 億円関係府県、市町村支払義務トスル。
個人 1 億～10 億支払義務スルコト。

2. モデル四県三重・滋賀・奈良・京都・大阪・木津川ヲ規制トスルコト

個人	077	三重県松阪市　今井 久晴

「川への想い」

今回、川に対しての思いを述べさせてもらえるという事で、淀川水系はドライブで何度か通ったぐらいなので特定の場所について述べる事はできませんが、日頃犬の散歩で川辺を利用していて感じる川への想いを述べさせてもらう事にしました。淀川水系には当てはまらないかもしれませんが、その時はお許し下さい。

「問題点」

１．以前よりは良くなっていると思いますが、まだ水質が悪い事。
２．生き物の種類が減った事。（コンクリートの護岸工事が原因と思います。）
３．憩いの場所という事で造られた公園などが、ほとんど利用されていない事。
４．その為荒れて景観を損なっていたり、維持費負担が大変な事。
５．堤防沿いや、川の中にごみを捨ててゆく人が絶えない事。

「理想・要望」

１．下流の都市部は下水施設の完備と、上流の農村部は各家に簡易浄化槽を。
２．稚魚の放流も大切ですが、コンクリートの護岸は隠れる場所が無い為ほとんどは鳥に食べられてしまいます。自然のままの川は隠れる場所が沢山ありました。
３．街から歩いて行ける所には散歩道や公園を造って、川に親しみを持ってもらうようにし、人気の無い所はサイクリング道（公園間を結ぶ）ぐらいで自然のままに残しておく方がよいと思う。
4. 個人のモラルの問題なので貴会に言う事ではないと思いますが、モラル教育・監視・刑罰の強化はいずれ必要になると思います。

「実現方法」

１．上流部の人達は簡易浄化槽を設置する余裕の無い家も多いので、補助金制度は必要ですが、下流部での水質浄化費用を軽減できれば、実現できるのではと思います。私の家の近くの川は、山からまだ 3 キロぐらいの所なのにかなり水質が悪化しています。下水道が完備していない町なので仕方が無いのですが、自然との不釣り合いが寂しいです。
２．隠れる為の葦や自然石のブロックを増やして欲しい。
３．公園などの維持費を節約する為にも、公園内に民活でレストランなどを造れるようにしたら、デートスポットになるような魅力的な公園ができるのでは？
４．刑罰を強化（高額罰則金）後、TV・新聞などで社会的モラルを訴えるのが一番ききめがあると思いますが、美的な生活が快適な事を長い時間をかけても広めてゆく事が理想です。

個人	078	滋賀県神崎郡　石井 秀憲

淀川水系についての意見

（特に琵琶湖、愛知川、周辺について）

１．問題点

1.1.合成化学物質（農薬等）による汚染。合成化学肥料、生活排水等による富栄養化、田植時の泥水の流入。（琵琶湖に蓄積→淀川へ）

1.2.川の直線化等（早く流してしまう）。内湖等の埋立等による自然浄化能力の減少。（川に浄化能力があるという認識の欠如）。

1.3.ほ場整備による乾田化と保水時間の減少。冬期など小川や川の長期にわたる乾上り。即ち、多様な生物の住める場所でなくなっていること。

1.4.河辺林の減少

(例)能登川町、日本電気ガラス（株）横の愛知川の貴重な河辺林が安易に伐採されたことがある。当時、マスコミでも批判されたが。何故か？今一度調べ直して欲しい。こんな事があってはならない。

２．要望

2.1.水の流れる部分について

(イ) 淀川のように、ワンドがあり、岸近くには、アマモやヨシが茂げる。水中植物が育つ。特に、河口にはヨシが茂り、中州や浅瀬がある。

指標としては、サギや冬はカモ等が群れていること。

例えば、愛知川は良いが、野洲川河口がダメ。掘りすぎて水深が深い？浅くすれば水生動植物が増え、浄化作用も行われ、水も澄んで生きて来る。カモ等も群れる。他の河川も見直し必要。

(ロ) 曲線化と所々に段差を作る。（滞留時間を長く、空気中の酸素を多く溶かす）

(ハ) 野生生物との共存を全く無視したほ場整備による河川と排水路の断絶を修復する。（パイプ排水の落水では魚は溯上出来ない。田んぼに入れない）

2.2.岸について

(イ) コンクリートや石積みの岸はやめ、土手が良い。理想は余呉川、土手巾は広くなるが、草に被れ、野生生物の宝庫、水辺と岸を行き来、出来るのも良い。カエル等）

(ロ) 河辺林を育成、保護する。例えば、愛知川河口は拡巾工事が行われているが、大木が惜しげもなく切られている。どんな野生生物がいるか、環境アセスは行われたのだろうか？結果は？利用者の少ない「ふれあい公園」のようなものは、今後作るべきではない。（キツネやタヌキ、キジなどの湖東に残された貴重な棲息地であった）

(ハ) 田の畦は（田んぼは）、枯草剤（農薬）を使う様になり、野生生物は住めなくなっている。堤防の草は将来も、今の様に草刈機（物理的方法）で処理を。

個人	079	京都府京都市　谷口　隆捷

神戸新聞（２００１年８月７日夕刊）より抜粋

『　三都“水ネット”
　　淀川活用、阪神疎小を建設
　　防災、観光活性化へ　』

京都－大阪を結ぶ淀川の水運を復活させ、大阪—神戸間に「阪神疎水」の建設を。京阪神を河川のネットワークで結ぶ計画を、近畿地方整備局などが検討している。

災害時の人や物資の運搬、防火用水などに河川や河川敷を活用し、水と緑を満喫できる街づくりが目的。同整備局は「三都を“水”でつなぎ、防災、観光、さらには経済の活性化につなげたい」と意気込んでいる。計画では環境面も重視し、汚泥の除去や魚道の整備をして自然生態系の回復を図るほか、船着き場や水辺などで樹木や草花を育てるという。

同整備局は、阪神大震災をきっかけに、河川を災害時や防災に利用することを検討。淀川ではすでに、船着き場や緊急時の交通手段に使うための河川敷整備などに着手した。今後、京都方面の上流域と大阪との往来を遮断している淀川大堰（大阪市東淀川区）に、船舶が通れるようにする閘門（こうもん）を設置し、水上バスなども運航して観光にも役立てたい考えだ。

水量の少ない阪神間の河川に淀川水系から防火・生活用水を引く「阪神疎水構想」では、兵庫県芦屋市など二カ所で、水路整備や周辺での植樹などのモデル事業を行っており、整備局はこの結果を踏まえ、事業化を検討する。

１．上記のような、明快な方策（構想）が不可欠と思うが、当委員会との関係は、どうなっているか知りたい。（構想力と裏付け技術を分けて議論すべき）

１．“関西の復興にとって河川とは何か”という視点がコンセプトとして強く打ち出されるべき。

１．猪名川水系を三川の重要な文化河川と位置づける視点が弱いのではないか。

個人	081	京都府相楽郡　尾崎　芳之助

「川への想い」

永い人生をこの自然と共に生き、この美しさを実感する今日この頃であります。過日、（平成 13 年 11 月 30 日）木津川の不法投棄物撤去作業に参加させていただき今更ながら木津川の不法投棄物増加の実態を知りました。

この度、川への想いを聞いていただくとのこと、早速、所感の一端を述べさせていただきます。

１．木津川河川敷の管理について

山城町に面した木津川は、永い治水の歴史の中で個人所有地が河川敷に取込まれ、現在のごとく多量に存在することはご承知のとおりであります。過日の清掃を機に不法投棄物が多量に投棄された方法と状況について考えてみました。道路による敷地への侵入口には扉が設置施錠され、一応侵入不能となっていますが、貸農園については開放されているとのことです。これが抜け道となってトラック等により運び込まれたと考えられます。

私が見た投棄物は古い農機具と生活用品が中心で犯人は農家が中心と考えられます。又、投棄場所の状況は、敷地内の道路沿いで、その外側（堤防寄り）には一応ガードレールが設置（一部破壊されていた）されており国の管理区域と想定されます。

そうとすれば、国に於いて撤去されるべきであります。しかし、民地が混在することから民地の可能性も考えれます。その場合は管理責任が問われなければならないと考えます。私達「木津川を美しくする会」は、それらの責任の所在を明確にし適切な処置が必要と考えます。

最後に暫定措置として、取りあえず農家を中心とした地域住民への啓発活動が肝要と存じます。

２．木津川水利権について

木津川へ注ぐ平尾地区の「萩の谷川」の木津川への放流対策に関しては一応整備されていると考えます。

しかし、その沿岸区域には未だ多くの農地（水田）が残っています。その灌漑用水については、それぞれ（個人等）においてポンプアップにより灌漑に対処しております。理由は木津川からの取水権（水利権）がないとのこと、大きな矛盾を感じます。

なお、山城町水道事業もボーリングにより対処されていると聞いております。上流の木津町では府県境を越えて奈良市による取水が行われております。水利権の慣習法は不当と考えるのは私一人ではないでしょう。

社会環境や自然環境が大きく変化する中で旧来の水利権の解釈は納得ができません。

為政者の意識改革と、その具体策を考えていただきたいと存じます。

３．最後に

わが国は、未曾有の経済危機と、大きな構造改革の時期を迎えております。山城町は木津川に沿い緑豊かな自然の中にあります。私達は木津川と緑豊かな自然環境を後世に残したいと念願し、国土交通省による自然環境保護をよろしくお願い申し上げます。

個人	082	京都府京都市　可畑 雅彦

堤防に桜並木を作ってほしい
今の状態だと寂しい感じがする

淀川水系のあり方

１．生津町に係る木津川堤防補修工事について

上流からの流れがちょうど生津町の堤防付近で直角に当たるため、堤防が相当削られており、この状態を放置すると堤防の決壊となります。現在、国土交通省が対策工事を施していますが、土砂が溜まり堤防が安全となり効果が出るには数年を要するものと考えられ、この間、生津町住民が台風等の災害が発生するたび、不安は否めないものと思いますので、更に早期の効果が出る補修工事の方法が見つかりましたら、施工をお願いしたいと思います。

２．美しい木津川のあり方

21 世紀に入り、我々の子孫に残す財産としては、1つとしてこの木津川を汚れのない美しい川として子孫に継承していくことが必要であり、こうした地域のひとつひとつがしいては京都府、近畿、日本であり、世界の自然環境保護の一環として参加できることになると思います。小さな事・個人々が空き缶やゴミを川や堤防に捨てないこと、また捨ててあるのなら、気がつけばゴミ等を自分たちで拾っていこうとする気持ちを養うことも重要なことでもあり、とにかく行政にまかせきりになりがちな世の中ですが、そういう気持ちが大切だと思います。大きな事・川の汚染等を少なくするために、企業の事業所が浄化槽設備を充実させて、行政側も経費はかかりますが、設備の補助金を交付する等、真剣にとらえなければ世界規模の自然環境保全には近づくことができないものと考えられます。

現在の我々の時代はどうにかこうにか生活できたとしても、このまま汚染の進んだ状態のまま放置し、ゴミがいたるところで氾濫していたとすると、我々の子孫は我々先祖のことをどう思うでしょうか？

川の流れは高い方から低い方に流れることにより、少々の堆積物は豪雨の流れで押し流されますが、汚染物質はそのまま下流に流れ、しいては海の方で堆積し、蓄積されます。

私たちの子供の頃には、来るべき21世紀は科学文明の発達、生活文化の進化を夢見ていました。他の動物たちより人間は高度な頭脳の持ち主であるからこそ、自然環境の維持を図り、我々の子孫にこの恩恵を施すべきであり、これは先祖としての義務であると考えてもいいと思います。

個人	083	大阪府高槻市　竹本　克巳

地域と結びついた計画の策定

地元との意見交換の必要性

地域と情報を交換し、基本計画と事業計画の策定に生かしていくシステムが確立されていると、事業主が事業計画を推進していく際に手順に従っていれば、ある一定のレベルで環境や地域に配慮した実施計画が可能と考える。

また、整備計画として、まとまった段階で公聴会などを開き、そこで得られた地域の人々からの水辺に対する要望も踏まえて総合的に問題整理していかなくてはならないと言える。

地域住民と川とのつながりを把握するために、地元住民団体などの意向把握以外に、常に川で遊んでいる小学生を対象としたワークショップをとりいれ、川と子供のかかわりに加えて、まちでの遊びについても遊び環境マップとして把握し、保全する必要のある緑地についてまで配慮し整備計画を策定されてきた横浜市の例がある。

また、市民参加による施設の利用や管理について行動計画も併せて策定しているシステムはよい効果を上げている。

さらに、これからは、事業効果については、地元で報告し、返ってくる反応など常に注意をはらい、次期の計画にフィードバックできるようにしておくことも重要であるのではないでしょうか。

水系自治体等との意見交換

水辺環境をめぐる問題は、市町村のみにとどまらない課題であり治水・利水を考えた場合、水系・流域一体とした協議の場が必要である。そこで、「地域の治水・利水と水辺環境を考える協議会」（例）などといったことが考えられないでしょうか。

たとえば、水辺管理者（河川管理者）と水辺関連市町村および地域住民団体等が出張所・府県土木事務所単位で協議会を構成し、治水・利水事業計画や水辺環境計画の情報交換や意見交換と調整といった機能を持たせる。もちろん、この協議会が国・府・各市町村の施策方針を縛るものであってはならないのは当然のことでありますが、「ゆるやかな調整の場」「意見交換の場」として位置付けできれば、水辺施設管理者との意見調整もしやすくなり、さらに、府内・県内全体の「地域の治水・利水と水辺環境を考える」組織等にまで発展できれば、水辺環境整備の事業化と発展が望めるでしょう。

また、財政的支援を国・府に求める手立てになれば、各市町村等にとっても有意義なことになるのではないでしょうか。今後は、地域住民との連携とネットワークづくりが重要になってくるでしょう。

個人	084	京都府京都市　畑 弘之

（あなたの想いが淀川を変える）を読んで

淀地域まちづくり協議会に聊か関る者として、愚見を述べさせて頂きます。
淀、納所地蔵は古くは朝鮮国信使来朝に依り、渡来文化交流の京都の南の玄関口として多くの人々が集い反映したところと聞き及びます。
釜山から海路大阪へそして淀川を淀へ、そして陸路京都、そして江戸へと国信使一行は多いときは 500 人を超えたと伝えられております。
本年 1 月24日京都市では市南西部の新観光資源淀城跡を再整備するなど　業着手に開けた基本構想をまとめました。
宇治川、木津川、桂川の三川合流の歴史ある三川の水系を最大に生かし、市の基本構想をベースに南の玄関口にふさわしい文化交流の　地域産業の活性化に役立つ集客とにぎわいのまちづくりへと想いを馳せる次第です。

個人	085	大阪府高槻市　佐川　克弘

鵜殿の導水路に池の設置を望む

私は国土交通省の（ポンプアップによる）鵜殿のヨシ原復元事業を大英断と評価している一人です。また切り下げ試験地についても、その経過を見守っております。淀川の河川改修事業の結果、水位変動による氾濫・撹乱作用が期待できない現状において、ヨシ原を復元するとすれば、緊急避難としての選択肢はポンプアップ以外に考えられないからと思われるからです。

しかし誰が見てもポンプアップに頼るヨシ原と言う“自然”の回復はあまりにも“不自然”です。あるべき姿は本来の姿、つまり水位変動による氾濫・撹乱作用が期待できる鵜殿を取り戻すことにあるのではないでしょうか。とすれば現状の鵜殿を全面的に切り下げ、その上に（現状の鵜殿の表土を）散布することによって、本物のヨシ原を回復すべきではないでしょうか。残念ながらこの本物のヨシ原の復元が何時実現するか見通しがありません。淀川本流の水位低下による鵜殿のダメージは大きく、もしポンプアップをしていなかったら恐らくヨシ原は絶滅してしまったと思われます。（先般鵜殿で観察したオオヨシキリの巣は、なんとオギとセイタカアワダチソウの茎に営巣されていました。導水路沿いにヨシが回復されつつありますが、オオヨシキリにとっては今でも“住宅難”は続いているのです）

ところで私はヨシ原の復元とは「ヨシを優勢とする植生と、昆虫・両生類・魚類・野鳥・カヤネズミ、イタチなど哺乳類を含む生態系の復元」を目指すべきだと考えます。今年は導水路でオオミクリ、ヒシ、ジュズダマ、ミズアオイが初めて観察できました。オオヨシキリにとってはまだまだ“住宅難の鵜殿”とは言うものの、チュウヒも観察できる豊かな生態系が残っているのも今の鵜殿の姿なのです。

さて本論に入ります。私は冬期ポンプを停止するのは、ヨシだけ見て生態系を見ない考え方で、“樹を見て森を見ない”のと同じだと考えます。他方（貧乏症の私は）“不自然”な自然を維持するための電力代もバカにならないと思います。そこでポンプ停止期間なんとか魚が緊急避難できる池を鵜殿に作れないものかと期待するのです。それは単純に魚がかわいそうだからではありません。干上がっても鳥が食べるから、それはそれでよいではないかと言われるのも（失礼ながら）現場を見ていない人の無責任な発言です。食物連鎖でコサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギ、カワウ、カワセミなどが魚を捕食していることぐらいは私でも知っています。問題はポンプが停止されたとき一時に大量の魚が死ぬので鳥が食べきれずイリコのように（ナマズはボウダラならぬボウナマズのように）なる量がかなりあることなのです。それは微生物が無機物に分解してくれて、翌年のヨシの肥料として役立つのだからよいではないかと言われるとすればなにをか言わんやです。ヨシ原の復元を目指す考え方が私と決定的に異なることになるからです。

もともと鵜殿には池はなかったのだから樟葉にワンドを復旧するのはよいが、鵜殿の池新設はいかがなものかという考え方は有り得るとは思います。しかし“我田引水ならぬ我田引池”の私としては、それならポンプアップそのものが既に（現時点で不可欠とはいえ）不自然であることを再指摘しておきたいと考えます。

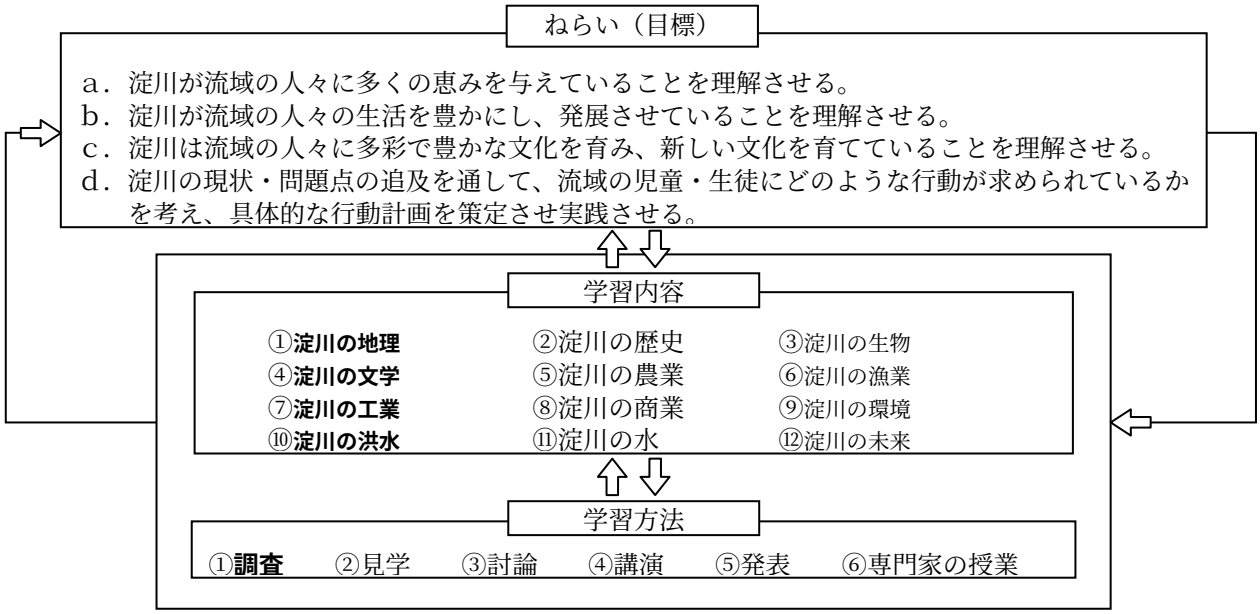
なお池は魚の越冬に役立つだけでなく、年間を通して水がないと生息できない植物、昆虫などにも当然役立つでしょう。先に紹介したオオミクリは関西電力の変電所の事故のため、夏場導水路のポンプが約1週間停止したため、非常に残念であるが枯れてしまった。 これが“夢の鵜殿池”の中だったら枯れずにすんだはずと悔やまれるのです。

以上

個人	086	兵庫県川西市　山内 篤

「淀川」は、生きた教材
‥‥流域各地に『淀川』学習の拠点校づくりを‥‥

1. 教育現場の現状。
残念ながら、淀川本流に接する校区を持つ小・中・高等学校においても、支流に校区を持つ学校においても、「淀川」を総合的に追及した実践例を見いだすことはできない。部分的に扱かうか、触れる程度の学習で終わるものが多い。したがって、児童・生徒たちにとって「淀川」は、生活から離れた忘れられた存在になっている。
2. なぜ、「淀川」学習が低調なのか。
まず、教師に、「淀川」のすぐれた機能、流域の人々に及ぼしているすぐれた役割が理解されていないばかりか、流域民の生活を破壊しかねない「淀川」の変貌への切実感や危機感が乏しいことにある。また、将来にわたって、流域の人々の生活に欠くことができない「淀川」の恵み、生活に密着した「淀川」のめぐみを総合的に追及し、わたしたちの「淀川」へ高めることの大切さが、認識されていないことにあると思われる。
仮に心ある教師がいても、「淀川」を教える適切な教材や、話を聞いて学ぶ人材やわかりやすく利用しやすい施設が乏しいこともあって、すぐには実践できない状況が原因となっていると思われる。
3. 総合的な「淀川」学習は可能。
「淀川」を総合的に学習することによって、流域の児童・生徒にとっての母なる川への理解にとどまらず、知識を覚えることに熱中している児童・生徒たちに、今一番欠けている「自ら課題を設定し、調査し、追及し、解決する力」、「学習の方法」「追及の意欲」「協力して問題を解決する実践力」を身につけさせることができる。
さいわい、平成 14 年から、小学校・中学校で、平成 15 年から高等学校において、「総合的な学習の時間」がスタートする。ご存じのように、この学習の目的は「これまでの覚えることに主眼を置いていた教育から、考える力を身につけさせること」にある。この時間は、各学校が、又は各学年が年間を通して独自の追及テーマを設定し、一年を通じて追及できる時間が与えられたものである。
各学校は、学校独自のテーマを設定し、学校教育の目玉を作ることになっている。
この学習の時間に「淀川」を総合的に学習する、特色ある学校が現われれば、すばらしい事だと思っている。「この時間に、『淀川』学習をしませんか」と呼びかけることが大切である。ただ単に、呼びかけるだけでなく、それをサポートする早急な体制作りが必要になってくる。
4. 総合的な「淀川」学習とはどんな学習か(試案)。



5. 総合的な「淀川」学習を可能にする諸条件
まず必要なことは、教師をサポートする体制を、「淀川」に関する専門家たちが力を結集して、作ることである。例えば、「淀川」学習を実践できる教師を発掘すること、上記の学習内容を、児童・生徒に理解しやすいように書きあらわしたパンフレットを豊富に用意すること、教師の要望に応じて、専門家を学校へ派遣できる体制を整えること、「淀川」関連施設を児童・生徒に利用しやすいものにすること、さらに「淀川」学習に関心のある教師を定期的に集めて、実践交流を実施し、淀川を深く勉強したり、効果的な学習方法を研究できる体制を構築することだと思う。このためには、貴委員会の「流域各地に『淀川』学習の拠点校づくり」が、大切になってくる。

個人	087	大阪府大阪市　佐藤　正助

河川に沿った遊歩道の整備・充実を期待します。
大阪湾～琵琶湖～日本海まで続く遊歩道の整備
「川の駅」・「湖の駅」の創設

私は、数年前からウォーキングを初めています。以前は主にジョギングを行っていたのですが体力的にきつく感じウォーキングに変更しました。

今夏、淀川河口（矢倉海岸）から福井県（敦賀湾）まで徒歩で行って見ようと思い付き今現在、琵琶湖の近江舞子まで到達しました。
本当は今年中にと思っていましたが来年の春以降に目的地に着ければと思っています。
その時に気が付いた事なんですが

1. 淀川左岸の枚方市（京阪電鉄・樟葉駅）付近から八幡市（京阪電鉄・橋本駅）付近までの間、河川敷に歩道が整備されていません。堤防道路は車の交通量が多く路肩を歩くには、とても危険ですので是非歩道を河川側に整備して下さい。立派な物はいりません。（幅は、1．5m程度で十分です。）
2. 琵琶湖では、湖周道路を湖西沿いに歩いていますが歩道が設置されていない個所が有り結構恐い思いをした事が有りました。そこで、琵琶湖には水際付近に遊歩道を設置したらどうでしょうか、木製の歩道等が有ればうれしくなります。
3. 遊歩道沿いに「川の駅」や「湖の駅」を設けませんか。清潔感の有るトイレとベンチ、案内板等が有れば女性や子供達も安心して歩けます。

維持・管理等に手間が掛かると思いますが、地域の人々と共同で出来ないでしょうか。
来年、無事敦賀に到着出来れば次は、別の河川に挑戦しようと思っております。
是非、多くのウォーカーが安全で快適に利用出来る遊歩道を整備して下さい。そうすれば、もっと多くの人達が川や水辺に親しめる様になると思います。

個人	088	大阪府茨木市　山本 威

琵琶湖・淀川水系の水質の問題点と提言

1. まえがき

平成13年10月　大阪市内で、市民団体に『大阪の水』について、ミニ講演した。
発表に先立ち、『大阪の水は安全か』と問うたところ、出席者の 10%しか賛成されなかった。
大阪市全浄水場の高度処理完成より、1年半を経て、尚市民が不安感を持っていることを知った。

2. 構造的問題点が常駐する琵琶湖・淀川水系の水質

上下に閉鎖系水域である琵琶湖・大阪湾に挟まれ、中間に 270 万人以上の大・中都市の下水及び中小河川を有する淀川は地形構造より、今後共水質異常発生の可能性を秘めている。加えて大阪市を始め、阪神 1400 万人の上水取水口が、淀川の下流にあるため、上流側の農薬、除草剤、産業薬品、生活排水及び、し尿等流出危険性が常につきまとっている。

3. 期待したい河川水質

イ) 国の定めた海、湖、河川の環境基準以下の水質になること
（例　琵琶湖及大阪湾のBOD　COD　1～2mg／㍑）
ロ) 凝環境ホルモンと指定された物質が河川に上水取水口で検知されないこと
又、棚、河川の底質でも半分以下になること（魚、貝類の保護を兼ねて）

4. 改善への提言

4－1基本対策

イ) 上水取水……京都市と同じく、琵琶湖よりトンネル水道で淀川中流まで取水管を施設する。1922 年 12 月　大阪市水道部の計画報告書と同じであるが、80 年経って尚、構造的問題点から脱し得ないので敢えて再提言する。
ロ) 下水区分……下水負荷で特出して大きな京都市烏羽・伏見処理場の排水は、別途下水管を淀川河川敷に沿うて設置し、大阪湾に放流させる。

（現行の高槻、茨木、吹田、箕面等中部都市は、下水処理水を淀川に放流させないで、神崎川～安威川ラインに連なっていることを参考に）

4－2　暫定対策

イ) 上水取水口から、上流の河川流域の全てを下水道普及率 100%を目標とし、その実施度を大阪府、京都府、滋賀県、三重県、奈良県の全住民に公開する。
ロ) 上水取水口から上流の全ての下水処理場を従来法から高度処理に、出来たら滋賀県の湖南中部及び東北部処理場並みの超高度処理に改善を行う。
ハ) 水田に投入する農薬及び除草剤の 1/3 が植物及び土壌に吸収されず、降雨時小川へ流出し、中河川を通して琵琶湖～淀川に至っているので、田んぼのあぜを高く、保水量を増やし、出口まで迷路を収けて自然浄化を助成させる。
ニ) 淀川河川敷ゴルフ場は、少人数特定者のレジャーである。之を撤去させ、バイパスの自然浄化水路を設け、BOD他の水質改善の一助とする。
ホ) 従来の農村水路の改修に簡易を狙って三面コンクリートのカルバートに置きかえられる例が多い。生物の自然浄化サイクルを断つ愚行であり、水路改修には専門機関で事前チェックすること
ヘ) 被害者意識の強い市民層にも場合によっては加害者になり得る知識を啓蒙し、市民を改善の味方にする。

以上

個人	089	滋賀県伊香郡　北村　貞信

淀川水系を考える

滋賀の約半分は森林で占められています。終戦後、特に湖北に於いては製紙原料として多くの撫材が伐採されました。しかし乍らその後植林されたのは主に常緑針葉樹でその目的を建築用材としたのです。しかしそれも今は輸入材に押されて多くの木が朽ち果てて、山へ入って仕事をする人は無くなりました。従って山そのものの保水能力は極端に低下し一時的大量降雨時山土と共に琵琶湖に一気に流入し水質汚濁の一因となっています。

そして又それが悪循環となって森林の荒廃をより一層大きくしています。一方湖周辺部の乱開発等に依り浄化能力の秀れたヨシ群、水草等の植物が大きな打撃を受け消滅しつつある事は疑う余地も全くありません。又圃場環境の生備が計られ多くの美田も整備されましたが、御覧の通り生産性の追及をする故に無機物質の使用が大巾に増加し、今に至っても窒素以外の水質目標が達成出来ていない事は第三次水質保全計画の結果が表しています。

圃場への給水と排水が別系統となっており、圃場の全排水は琵琶湖へと一括して流されています。滋賀県市内の琵琶湖以外の全面積の全ての水を最終的に琵琶湖で浄化していると言う事です。一説によれば琵琶湖の様な深くて大きい湖の水は入れ代わるのに約二十年の歳月が必要と言われています。従って一刻も早く何とかしなければなりません。最近では水上バイクについても問題提起がされています。

従って以下の提案を致したい思います。

1. 広葉落葉樹の植林に依り森林の保水能力と浄化を計る。
2. 琵琶湖への流入河川の河口を一定区域締め切ってヨシ群、水草等で浄化して琵琶湖へ放流する。
3. 圃場への給排水は循環させ順次上流より利用する（排水給水に使用する）反復使用
4. 集落内を含めて三面コンクリートの川の設置は今後一切せず現在の老朽化した水路は汚濁水が、水と接触し浸透する様改良する。

以　上

個人	090	京都府城陽市　田中 裕

「親水ゾーン」の設置について

昭和30年代前半、夏になれば、父や叔父らと京都市内から奈良電に乗って、木津川遊泳場に連れてもらい、臨時駅から河原まで走ったことを覚えている。

しかし、プールが整備されたためか、いつのまにか遊泳場はなくなった。

あれから25年後、城陽に住むことになったが、歩いてでも行けるところに木津川があり、流れ橋がある。

でもその木津川は泳ぐ場所ではなく、バーベキューなどを楽しむレクリエイションの場に変わっていた。

泳げなくとも、川は人が憩う、娯楽の場所であるのは、昔から変わっていないこと、つまり「親水性」が我々にはあるということの表れであると思われる。

そこで、木津川のような大きな河川では、本流とは別に「親水ゾーン]を創ったらどうかと思う。

水遊びができる程度の深さがあれば十分である。

温暖化を初めとする環境問題と教育問題等が今後の大切なテーマになり、現在のライフスタイルの見直しが必要になるが、そのヒントは昭和30年代にあると思う。

老若男女が川で集って語り、水辺には水草など青々とした植物そして川魚が生き生きとしている、子供時代にあった光景を再現したいものであり、これは住民もしっかりと関わっていかねばならない。

個人	092	滋賀県高島郡　戸次 威佐武

＊2000万人以上の人が飲料水としている琵琶湖の水の汚染についての意見書＊

命題、琵琶湖周辺の農業のほ場整備が琵琶湖を汚しています。

ほ場整備がされていない時代は、田圃は直列に繋がれていて、上流の田から次の田へ、次の田へと水が流れ、最後に池や内湖を通り、葦原で浄化された水が琵琶湖に流れ込んでいました。だから琵琶湖の水はきれいでした。

ところがほ場整備された田圃は、田圃が並列に繋がれており、それぞれの田に水を供給する溝とそれぞれの田から出てきた水を受ける溝があり、その水は1枚の田にしか使わずに、その田の肥料や農薬を含んだ水をなにも浄化しないで、U字溝の溝川を通って直接に川や琵琶湖に流れ込みます。

朽木村の市場の人に聞きますと、「家庭用排水は下水処理にお金を掛けて施設を完備しているので、浄化されたきれいな水が安曇川へ流れていて問題はありません。朽木も田圃はほ場整備がされています。その水は溝川からなんの浄化もせずに直接安曇川へ流しています。」との解答でした。下流の漁師が「むかしは安曇川の水中の石に生えた水苔を求めて鮎が俎上したのに、今はその石にぬるっとしたヘドロのようなものがついて鮎があまり登って来ない。」と嘆いておられました。我々がきれいだと都会の人に誇っていた安曇川でさえ相当汚れているようです。

また琵琶湖近くの田圃では、琵琶湖の水を汲み上げては、一枚の田にしかその水は使わずに、その田に撒かれた肥料や農薬を洗い流した水をなんの浄化もせずに琵琶湖に流しています。琵琶湖が汚れるのは当然であり、琵琶湖の汚し機の何物でもありません。

小さい時に溜池の水を掻い出しては魚掴みをしたことがありますが、掻い出した水が周りの土を洗えば当然溜池は濁ります。ほ場整備の田圃の場合はその濁り水に農薬や肥料が混じるのですから一段と汚染され濁ります。その水を近畿の2000万人以上の人が飲んでいることになります。ぞっとします。なぜほ場整備をした田圃が琵琶湖を汚す原因となることを考えなかったのか。疑問であり、その時の執行者は責任を取るべきであります。

5月10日ごろ安曇川町の琵琶湖にそそぐ青井川を見に行きました。薄黒い水が琵琶湖に多量に流れ込んでいました。そのあたりの漁業組合の人が「琵琶湖の赤潮はゴールデンウィークの一週間ぐらい後、水温が高くなった時に出ます。それも田圃の多いところは幅広く出、山が迫っている田圃の少ないところは巾が狭いです。赤潮は農業排水が主な原因であることは明白です。」と言っておられました。また「湖中につける網はヘドロのようなものが付着して、それが年々ひどくなります」とも言っておられました。

琵琶湖周辺の地域で琵琶湖から飲料水を汲み揚げている地域は別紙1の図の通りです。琵琶湖の水を汲み揚げてはその家庭用排水を下水として琵琶湖に流すのですからこれも琵琶湖汚し機です。しかしこの下水は公共下水道、農村下水道がだんだん完備して参りましたから、これは琵琶湖の汚染を防ぐことができる方向に進んでいると思います。

また工業排水も規制が厳しく、1か月に1回の排水検査が実施されているところもあり、私の知っている採石工場は濁った水を直接に川に流すことができず、大きな溜池を作り、その上水を川に流すようにしないと許可がおりません。ほ場整備の田圃も集落ごとに溜池を作ってそこに農業排水を溜め、その水を上の田に揚げては何回も何回もその水を使う水のリサイクル利用を考えては如何ですか。そうすれば水温も上がり、養分も粗末にしなくて済むと思います。最近はリサイクルをやかましく言われますが、水のリサイクルも大切だと思います。大きく考えれば公共下水道の排水、農村下水道の排水は人工的に処理した水であり、自然水から見たら死んだ水です。その水をもう一度山に揚げて山林の育成に使っては如何ですか。自然の浄化作用で水はきれいになり、山林は栄え、琵琶湖にはきれいな水がそそがれると思います。ダムの建設と同等以上の効果があると思います。

ほ場整備がされている琵琶湖周辺の田圃の図は別紙2のとおりです。

ほ場整備の改善は農業者だけに負担を掛けては気の毒です。この頃の農業経営は米価の下落、ほ場整備の負担金の増加によりまことに苦しい状態です。琵琶湖はみんなで守らなければなりません。琵琶湖の水を飲料水としている近畿のたくさんの人から資金を投入して早急に対策を実施してはいかがでしょうか。

少年時代は遠浅の浜辺で足の裏の砂の心地よい感触を楽しみながら泳いだものでした。
あの琵琶湖をもう一度取り戻せないものかと思います。

個人	097	兵庫県尼崎市　安田　邦男

川の高水敷で虫取りをしよう

私の近くにある猪名川（藻川を含む）では、高水敷はきれいに草刈がされており、散歩やランニング、また学校や幼稚園の子供達の課外活動に利用されている風景をよく見かけます。しかし虫取り網を持って走り回っている人たちを見ることは殆どありません。これだけの草原がありながら虫が少ないのは刈られている草の高さが低すぎるのではないでしょうか？また草の種類が単一化しているのではないでしょうか。虫は草を食べたり、その草に隠れたりして生涯を送ります。そのためにはもう少し高い草丈、例えば30cmとか60cmくらいの高さが必要と思われます。綺麗過ぎて虫が住めない環境になっていると思います。全体の1割とか2割ほど適当に管理された草地（少し高い草丈を維持した草地）を作ってもらえませんでしょうか。淀川などでは自然状態でおかれているエリアがあるんですが草丈が高すぎて子供達は怖がって寄り付こうとしません。大人でも1人では不安です。周辺を綺麗に刈り取られた50㎝くらいの草丈のエリアが適当ではないでしょうか。
このくらいの草丈ですと日本古来の雑草も生息できると思います。ヨモギやヨメナなどは低く刈られると生存できなくなっているのではないでしょうか。彼岸花や和スイセンなどの球根も草刈時期との組み合わせで生存できると思います。クローバーの花が咲く時期にはそのエリアだけ刈残して花を楽しむことはできないでしょうか。統一規格化された草刈ではなく野草が楽しめる草刈があればとてもすばらしいと思います。多様性のある高水敷が生まれたらとても楽しい憩いの場として多くの人々が利用できると思います。小さな虫たちが住む環境は人が安心して住める水や空間の証ではないでしょうか。